



平成 29 年 8 月 21 日

各 位

会 社 名 倉庫精練株式会社  
代表者名 代表取締役社長 中前 和宏  
(コード番号 3578 東証第二部)  
問合せ先 総務課長 上田 紀昭  
(TEL. 076-249-3131)

### 事業の現状、今後の展開等について

当社は、下記のとおり、事業の現状および今後の展開等について、株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第 601 条第 1 項第 4 号 a に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、平成 30 年 2 月末日までのいずれかの月において、月間平均時価総額および月末時価総額が 10 億円以上になった時は、同上場廃止基準に該当しないこととなります。

当社はこの度、時価総額基準に抵触いたしましたでしたが、下記「2.今後の展開について」に記載いたしました事業計画の推進により、業績の向上を図り、市場の信頼を回復することによって、今後も東京証券取引市場第二部上場を維持するよう努めてまいります。

### 記

#### 1. 事業の現状について

##### (1) 経営の基本方針

当社は、大正 3 年（1914 年）8 月の設立以来、長年にわたって培われた染色加工およびその周辺技術をベースにした技術の展開と、より優れた商品の提供によって社会に貢献することを、経営理念としております。この理念の推進によって、堅実かつ安定した経営基盤を構築し、顧客と社会に信頼され、株主のご期待にこたえうるよう、経営に取り組んでおります。

##### (2) 当社事業の現状

当社は、工場集約最適化を迫及した生産効率・収益の改善、得意とする素材・加工の開発・販売を強力に推進しております。

この結果、平成 30 年 3 月期第 1 四半期連結会計年度の売上は、10 億 28 百万円（前年同四半期比 16.8%増）、経常利益は 1 億 69 百万円（前年同四半期は 1 億 52 百万円の損失）、

親会社株主に帰属する四半期純利益は1億66百万円（前年同四半期は1億60百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

① 繊維事業

衣料用途においては、得意とする婦人用などの複合商品、スポーツ用などの高次加工商品は開発取り組みを強化した結果、堅調に推移しました。資材用途においては、カーシートなどの車両資材関連、産業資材用などの高機能繊維商品関連は堅調に推移しました。

以上の結果、繊維事業全体における売上高は9億27百万円（前年同四半期比18.0%増）、営業損失は19百万円（前年同四半期は1億24百万円の損失）となりました。

② 機械製造販売業

機械製造販売業における売上高は41百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益は、5百万円（前年同四半期比54.5%減）となりました。

③ 内装業

内装業における売上高は59百万円（前年同四半期比12.3%減）、営業利益は、2百万円（前年同四半期は0百万円の損失）となりました。

連結業績の推移

（単位：百万円）

決算期	平成 25 年 3 月期	平成 26 年 3 月期	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期	平成 30 年 第 1 四半期
売上高	4,572	4,374	3,344	3,451	3,314	1,028
営業損失（△）	△59	△260	△685	△154	△286	△9
経常利益又は経常 損失（△）	56	△160	△859	△413	△592	169
親会社株主に帰属する 純利益又は純損失（△）	124	△857	1,066	△431	△768	166
純資産	2,298	1,173	2,276	1,999	1,299	1,325

2. 今後の展開について

当社は、平成29年3月27日付で丸井織物株式会社と資本業務提携契約を締結し、平成29年3月28日から実施しておりました当社株式に対する公開買付けの結果、平成29年5月24日をもって総議決権の過半数を保有し、当社の親会社および筆頭株主になりました。また、平成29年6月28日の株主総会によって、丸井織物株式会社から取締役3名が就任しました。

本契約の合意内容にもあるとおり、当社の収益力と企業価値の最大化のため、メキシコ事業からの早期撤退に向け、関係者と協議を進めており、今後は経営資源を国内事業に集中してまいります。

国内事業では、当社の再生に向けて、丸井織物株式会社とともに、平成 29 年 6 月より「事業戦略」・「収益構造改革」・「組織戦略」の 3 つのプロジェクトを立上げ、すでに具体的に協議・検討しており、コスト削減については行動に移しております。

各プロジェクトの主なテーマは以下の通りです。

#### ①事業戦略プロジェクト

- ・両社の顧客情報を踏まえた販売の拡大
- ・両社が得意とする合繊織物分野での、織り・染め工程一貫での競争力のある商品の共同開発と販売の拡大
- ・当社が得意とする化繊織物、複合織物及びニットのストレッチ素材、起毛加工、ラミネートなどの独自技術を活かした競争力のある商品の開発と販売の拡大

#### ②収益構造改革プロジェクト

- ・両社の生産内容やコストを比較し、徹底したコスト削減による競争力・体質の強化
- ・生産設備、生産管理、工場運営の現状把握と改善への取り組み

#### ③組織戦略プロジェクト

- ・織り・染め工程に精通した人材や、多能工人材を育成するための組織・人員体制や人事制度の確立

以上を踏まえて、9 月中旬を目途に中期経営計画を完成させ、完成後は、すみやかにお知らせいたします

### 3. 今後の見通しおよび上場維持について

当社は、平成 30 年 3 月期連結会計年度の見通しにつきまして、売上高 3,700 百万円（前年同期比 11.6%増）、営業損失 58 百万円（前年同期は 286 百万円の損失）、経常損失 10 百万円（前年同期は 592 百万円の損失）、親会社株主に帰属する当期純損失 20 百万円（前年同期は 768 百万円の損失）を予想しておりますが、「2.今後の展開について」に掲げました施策を実施することにより、今後業績予想の見通しに変更が生じることになれば、すみやかにお知らせいたします。

当社は、継続的に利益を計上できる企業体質に変革させ、市場からの信頼回復と企業価値の向上に向けて取り組んでまいります。これにより、当社株式の月間平均時価総額および月末時価総額について、株式会社東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後も東京証券取引所第二部上場を維持するよう努めてまいります所存であります。

以上